

講演や演奏楽しむ

会員交流会を初開催



① 昼食を取りながら和やかに懇談する会員ら
② 講演する雪村顕彰会の富山章一会長
③ オカリーナを演奏する野内敏子さん



茨城新聞友の会「iくらぶ」の会員交流会が3月11日、水戸市泉町の京成百貨店9階バンケットルームで開かれました。県内各地から会員約20人が参加、茨城新聞社の幹部らと昼食を取りながら懇談、会員同士の交流も深めました。会員交流会の開催は初めて。

茨城新聞社の沼田安広常務取締役が「iくらぶのサービスを充実させ、会員を増やしていきたい」とあいさつ。会員らは中華料理を食べながら、会員同士で話を弾ませたり、川上俊也取締役営業局長や小川敏正編集局長ら新聞社幹部と茨城新聞の紙面や事業について忌憚なく意見を交換したりしました。

懇談の後、雪村顕彰会の富山章一会長が「雪村一謎の生涯を追う」と題して講演、「雪村は常陸大宮市下村田に生まれたというのが定説。雪舟と肩を並べる巨匠なのに県内でもあまり知られていない」として顕彰の必要性を強調しました。会員の植竹紫芳さん（下妻市）から「雪村を多くの県民に知ってもらうため、茨城新聞社が県内の主な地域で雪村の巡回展を開催してはどうか」と提案がありました。

続いて、野内敏子さん（水戸市）がオカリーナを演奏。「上を向いて歩こう」や「コンドルは飛んでいく」、東日本大震災8年にちなんで「花は咲く」などの曲を披露し、会員らはオカリーナの音色に聞き入ったり、手拍子や歌で演奏に加わりました。

最後にプレゼント抽選会を行いました。景品は千鳥会の記念品や茨城新聞社発行の「いばらきセレクション125」「茨城歴史人物小辞典」、県近代美術館の企画展招待券、鹿島アントラーズと水戸ホーリーホックの観戦チケット、十俱茶・游提供の鉄観音茶で、全員にもれなく当たりました。

参加した会員からは「和やかに懇談できてよかった」「楽しく過ごせた」「会員交流会を各地域で開催してほしい」との感想が聞かれました。

会員交流会は年1回の開催です。次回の開催日程等が決まりましたら、会員の皆さまにお知らせします。